

## ■ 会長就任のご挨拶 ■

山田 礼子 (同志社大学)

この度、小島勝前会長の後任を務めさせていただくことになりました。思ってもいない出来事でしたので、ひしひしと責任の重さを痛感しています。本学会の活動にはアメリカに在住していた1980年代から関心を持ち、海外会員として参加させていただいたことが、本学会に本格的にかかわる最初の一步だったと思います。本学会の設立に加わられた先生方の多くは「海外帰国子女教育」に関心をもっておられました。当時の私の本学会の研究関心領域も「海外帰国子女教育」でありました。

それから20有余年、本学会の会員数も増加し研究内容も時代の流れとともに変容し、多様化してきました。また、新規に会員になる大学院生のバックグラウンドも様々な背景をもっている方が多くなってきています。学会発足から25年以上もたったこの間に、多くの緒先輩方が異文化間教育を『学』として定着させ、より発展させるために、学問的な研究を推進し、同時に、実践も広げてきておられます。学会は、こうした「学問」の制度化への役割とともに、閉ざされた学会の中だけでなく、多くの人々がその「学問」の知識を共有し実践に生かしていくようことにも貢献していかなければならないと思います。

小島前会長は、若手研究者の育成という大きな課題を挙げ、そのための方策をいろいろと提示されました。若手研究者の育成は学会を担っていく次の人材を育てるという意味でも、引き続き大きな課題と考えております。

前会長の企画を継承しながら、さらに本学会が発展するよう微力を尽くしたいと考えています。会長と事務局長がともに女性であるというはじめての組み合わせですが、女性会員の多い学会という特徴にも貢献できるよう、がんばりたいと思っております。

会員の皆様の忌憚のないご意見をおうかがいしまして、より親しみのもてる、楽しくて実りのある学会にしたいと思います。会員の皆様のこれまでと変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。